

<今回>301回目 2021年9月10(月)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p346、12行目、論点をまとめると より

<前回>300回目(21-8-23)出席者 7名

資料(21-08-23-1)前回のまとめ(清水)

(21-08-23-2)干支表(清水)

A 報告 コロナが一向に収まらない。自分の判断で行動を決めてください。私はこの会場が閉鎖にならない限り開催したいと思っています。今年の4、5月は公共施設は閉鎖になっていました。知事の権限でできたはずでしたが、今年は国の権限だという。300回続けられたのは高山氏はじめ皆様の協力のお陰です。

B 資料 2)は干支の読み方がなかなか覚えられないので、泉区歴史の会の方から頂いたもの。10干12支の組み合わせなのになぜ120組ないのか、ない組み合わせに意味はあるのかと質問があった。最小公倍数で60組の組み合わせになったのだろうが、それ以上はわからない。60で還暦ということに落ち着いた。高山氏が白板に平子説(美術史家)の宣化と夫人、孺子を合葬した風聞を百済本紀は誤伝したという根拠の系図が示された。

C読書 「日本」という国号

1) 旧唐書日本伝に、倭国(九州王朝)が自ら雅でないので、改名した。改名した最初の王朝は多利思北孤である。彼は「日出処の天子」と名乗ったから字義一致している。その後、近畿大和の小国であった天皇家は倭国を併せて日本の名も継承した。唐朝は内部に阿倍仲麻呂のような日本人を抱えていたから日本に対する認識は正確であった。

2) 百済三史(百済紀、百済新撰、百済本紀)の史料性格は日本に同調していない。「貴国」は百済紀だけにある。「日本」については百済本紀だけにある。造作説では説明しきれない。

3) 津田説では改定すべきところが改定されていないのは、何人もの手で改定されたので不統一のままになったという。日本書紀本文については百済紀、百済新撰の段階(時代相当)でも出現しているが引用文では原資料そのものには改定を下していない。日本書紀は初代神日本磐余彦と倭を日本に書き直している。武寧王陵の墓碑銘は百済本紀や百済新撰の記事の正確さを裏付けている。(欽明紀の地の文では日本が多数出ている)

4) 天皇の称号 天皇(てんこう)の称号は古い]伝統を持っているとして4例上げた。天皇が九州を統治する。東僻の語にも関連している。

5) 百済系3史料にでてくる日本側の人名で該当者が見つからないものがきわめて多い。語なまりて詳ならず。日本書紀欽明5年(544)の項目中の百済本紀の引用したものにもっとも集中的に出現する。書紀編集者は大和朝廷の中に伝承された人名に該当するものが居なくて、困り果てたようだ。

6) 東アジアの情勢からみると5世紀後半から6世紀初頭までの記事を有し、6世紀前半に成立したとみられる百済新撰に天王や大倭といった称号、国号が出現しても不思議ではない。

7) 後魏(北魏、東魏、西魏)の史書である魏書は北斉の天保2年(551)魏収の撰に基づくもの、その帝紀12巻を「魏書紀」と称している。日本書紀の先例になったものと言われる。

次回日程 2021-9-20日(月) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室

—10-8日(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室